



KICK OFF 通信

目指せ！人財大国 学校給食は是か非か①

◆給食にまつわる賛否

横浜市でも中学校給食の導入の是非を巡って、しばしば賛否が交わされています。しかしここは、一方的な大人の見方ではなく、子ども達の視点から論ずることが必要と思えます。すなわち、給食が子どもたちの心身にどんな影響を与えているのか、またどんな存在なのか、を第一に考えなければなりません。

従来から、給食は栄養バランスも良く、心身の成長に好影響をもたらし、かつ食育を通じて学習効果も高まる、と言われてきました。

ところが他方で、学校現場では様々な問題が発生しているのも事実。これを看過して、単に賛成論だけを唱えていくと、まさに「木を見て森を見ず」と言われても仕方ありませんでしょう。

◆学校現場における課題

まずアレルギー問題です。昔とは比較できない位、卵や牛乳はじめ、20種類以上の食物に対するアレルギー申告が出されているのですが、学校側の対策は万全で

しょうか。少なくとも、20万人以上の食物アレルギーを持つ生徒が、給食を食べています。アレルギー症状の出た中の半数近くは、新たな食物アレルギーが給食を通じて、見つかったとされる子どもたちなのです。

次に、残食の問題。これには2つありまして、第1に食べ残しといった「食品ロス」をどう減らしていくのかという課題です。既に養豚の飼料にリサイクルする動きも散見されますけれど、根本的な解決策とは言えませんね。

そして第2に、行き過ぎた指導が却って子どもたちを心理的に追い込んでいくという実例です。先生から完食を迫られたことで、不登校になったり、吐き気や目まいを発症するケースが後を絶ちません。残食率を減らす目標値ばかりにこだわると、却って子どもを給食から遠ざけてしまう、逆効果が指摘されています。

さらに社会問題視されている給食費の滞納問題。保護者のモラル低下が進行しているのでしょうか、それでも自治体や学校側も

腐心して回収に努めております。

しかし、児童手当などから強制的に差し引くには法的な限界があり、しばしば裁判沙汰になるケースも。現場サイドの徴収負担をいかに軽くするかが課題でしょう。

◆それでも学校給食は必要

その他、多くの問題点を抱えている給食ですが、学校側の並々ならぬ苦勞を理解した上でも、実施し続けることには賛成です。無償化の論点は次号に回すこととして、子どもの食生活につき、教育現場が一定以上担わなければならない時代に入ってきました。

ごく一部とは言うものの、家庭では賄えない子どもたちの心身の発育・発達につき、せめて1日1食だけでも公的なサポートが重要と思えます。全体的な底上げを図っていくことに、本質的な教育の意義を感じます。

もともと、給食は楽しく食べられることをモットーとすべきでしょう。子ども達がこうした環境で学び、育つことが必須ならば、子どもの食に最善を尽くすのは、国家の基本的な使命と言えます。



水み
と
口もわく

【プロフィール】

昭和37年 7月28日 北海道生まれ 藤沢育ち
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格
平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長
総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事
国土交通委員会ならびに厚生労働委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長

平成29年 第48回 衆議員選挙出馬せず下野する
平成30年 一般社団法人人づくり・国創り研究会を設立

前衆議院議員 / 元参議院議員